

## GRiD MT による長周期波動場のモニタリング -2024 年能登半島地震領域-

鶴岡 弘（東京大学地震研究所地震火山情報センター）

全国地震データ流通ネットワーク(JDXnet)のリアルタイム地震波形データを利用して、広帯域地震計からの周期 20-50 秒という長周期波動場をモニタリングし、リアルタイムに解析して、震源時・震源位置・メカニズム(モーメントテンソル解)・モーメントマグニチュード(Mw)などを完全自動決定する GRiD MT システムが地震研究所において 2003 年より運用されている。自動決定された地震については、その解析結果をメールや WEB により提供・公開されている([https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/GRiD\\_MT/](https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/GRiD_MT/))。

能登半島領域は GRiD MT によるモニタリング対象ではなかったが、事後であるが GRiD MT によるモニタリングを実施した結果について報告する。使用した観測点は、F-net 観測点の YAS, KNY, ASI の 3 点である。

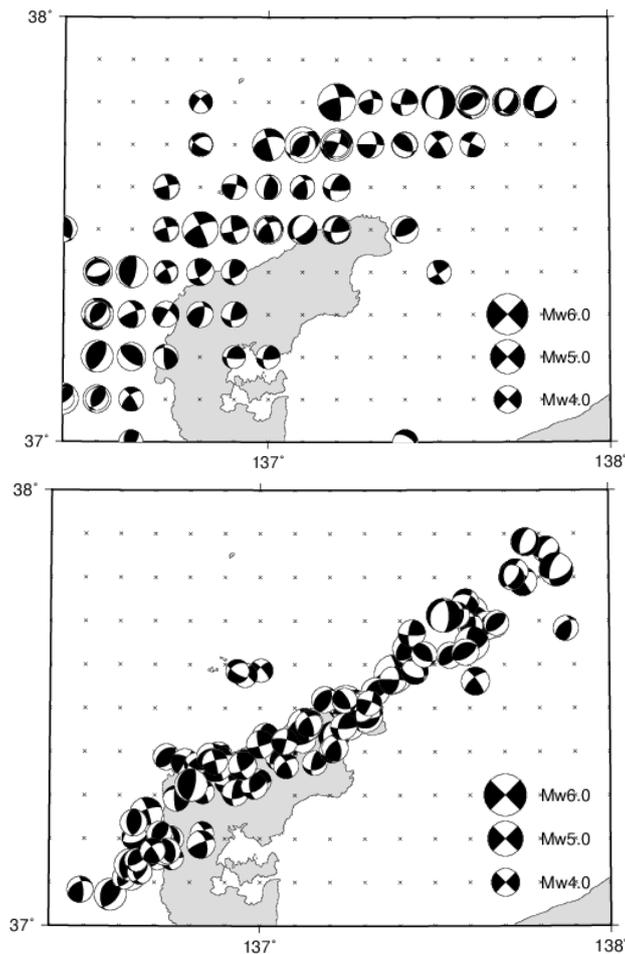


図 1. モニタリング結果（上: GRiD MT の出力, 下: 震源位置を気象庁一元化震源に置き換えてプロット）

モニター期間は2004年1月1日16時から1月5日までで、Variance Reduction (VR)が50以上の結果を採用した場合116個の震源が決定された。同じ期間における防災科学研究所によって決定された解(F-net 解)は136個であり、その結果を図2に示した。

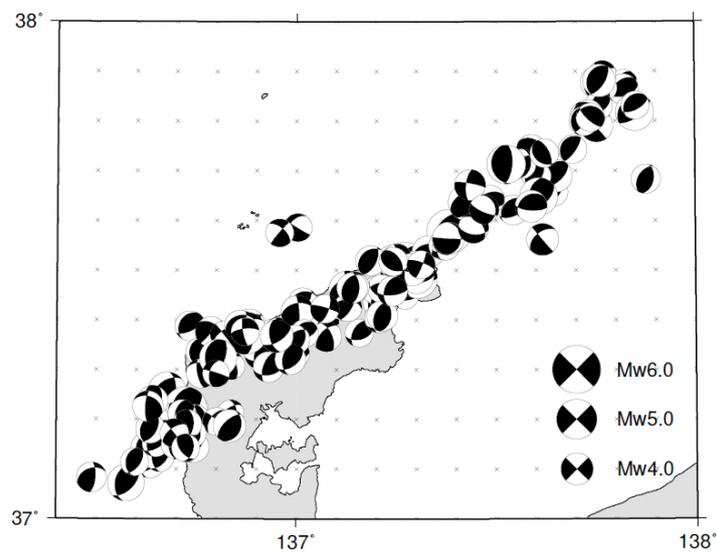


図2. F-netにより決定された結果.